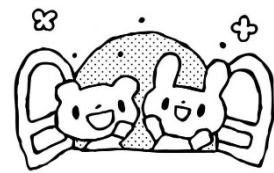


えんだより

# キラキラ 11月



2020年11月2日  
社会福祉法人尚徳福祉会  
保土ヶ谷保育園

ますます深まる秋を感じながら、子どもたちは自然との触れ合いを楽しんでいます。遊具が何もなくとも、枝を拾ったり、木の実を拾ったり、虫を探したりと、ずっと遊んでいます。自然は飽きることのない偉大な遊具です。そして自然は大きな学びの場でもあります。2歳児クラスでも図鑑を持っていくと、拾った葉っぱの名前を保育者から教えてもらって、みんなで教え合っています。幼児クラスになると、虫を捕る際にどこにいるか、どうすれば捕れるか、お友たちと考えて協力します。拾ったどんぐりをみんなで数えて、数も学んでいます。「様々な植物の名前を知る」「考える」「協力し合う」など、お散歩にはたくさんの学びがあります。

先日、幼児クラスの「運動遊び発表会」を行いました。クラス毎での短い時間という形になってしまいましたが、子どもたちは保護者の方に見てもらうことをとても喜んでいました。「クラスみんなで一つのことをやり遂げる」ことは、子どもたちにとってとてもいい経験になります。3歳児くらいでは、見てもらってたくさん褒めてもらってそれが自信へとつながります。年長児になると、どうやるか、どうやったら格好良く見えるか、自分たちで考えるようになります。リレーで負けてしまった時は、一緒に泣いたり慰め合ったり・・・そんなやり取りの中で、思いやりの気持ちや、頑張ってやり遂げることを経験していきます。発表している姿はとても堂々としていて、自信に満ち溢れていました。子どもたちが頑張っている姿というのは、本当に感動的です。

園長 大日方 直美



## <アタッチメント（土台）の重要性>

アタッチメントとは、スキンシップとは違い、感情が崩れた時、怖い時、不安な時に、元通りに立て直して、元気になった子の背中を押して元に戻してあげることです。このような関わりを日々行ってあげることで、「自分は愛されている、愛される価値があるんだ、いつも大切にしてもらえる」という気持ちが育ち、これがこれから生きていく上での「土台」となっていきます。この土台がしっかりできていると、将来、勉強や部活を頑張り、社会人としてしっかり働くことができる大人に育っていきます。泣いても放置する、小さいうちから自立を促すなど、アタッチメントが不足すると、常に不安で自信を持ってない、人を信じられない、という大人になってしまいます。土台がしっかりしていなければ、その上にいくら教育を積んでも、積み上げることはできません。乳幼児期が一番重要な時期！子育てと仕事の両立で、毎日大変なことと思いますが、子どもたちの輝かしい未来のために、この「アタッチメント」を頭の片隅に置いてみてくださいね。

## 👤 今月の予定 👤

- 11月11日（水）尿検査  
(3,4歳児)
- 11月14日（土）子育て支援  
英語（親子）要予約
- 11月18日（水）避難訓練
- 11月20日（金）英語  
<個人面談>
- 11月2日～きりん組 11月9日～べんだ組  
11月16日～べんぎん組 11月24日～ひよこ組
- ※12月12日（土）に予定していたおたのしみ会は中止となります。  
(保育参観という形で行う予定です。)